

予防接種

ワクチンとティーン

人との付き合いで多忙な年代

2017年、第5版



The Children's Hospital of Philadelphia®



VACCINE EDUCATION CENTER



ティーンには
彼ら独自の
一連の
健康上の必要性があり、

親は、おむつ替え、子供が友達と遊ぶ日のお膳立て、宿題の手伝いなどをしていた時よりも、生活が慌ただしくなるとは全く思いもしませんでした。が、どういうわけかもっと忙しくなっています。家庭における思春期の若者やティーンは「忙しい」という言葉に全く新しい定義をもたらします。子供には、独自のスケジュール、締め切り、義務があるのです。ティーンには、ワクチンを含む、独自の一連の健康上の必要性もあります。

子供が思春期に入ると、生命を何時間かの内に奪う可能性を持つ疾患である、髄膜炎菌性髄膜炎にますます罹患しやすくなります。まもなく自分の性についても探求し始め、それによってヒトパピローマウイルスのような性感感染症へ暴露する可能性が高まります。そして、百日咳など、小児期に受けた一部のワクチンによる免疫能は徐々に減衰し始めます。親として、子供が必要とする接種とその時期をどのようにして知るのでしょうか？「注射」されること、さらにカレンダーに別の予定を加えることについて子供と議論する価値はあるのでしょうか？そして、最も重要なことは、これらのワクチンは安全なのでしょうか？

この冊子では、推奨されるワクチン、それらが予防する疾患および安全性について検討していきます。また、予防接種時の快適な過ごし方や、大学や雇用主のためのワクチン接種記録の確認方法に関する情報を提供します。思春期の若者やティーンにおける特有の必要性について一層理解が深まると、なぜあなたの主治医が、ワクチンの価値について非常に強い思い入れを持つのかをお分かりいただけるでしょう。

それにはワクチンも含まれます。



目次

- 6 なぜティーンはワクチンが必要なのでしょうか？
- 8 ティーンはどのワクチンが必要ですか？
- 10 ティーンに推奨されるワクチン
 - ・ 髄膜炎菌ワクチン
 - ・ ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン
 - ・ 破傷風-ジフテリア-無細胞性百日咳 (Tdap) ワクチン
 - ・ インフルエンザワクチン
- 18 キャッチアップ接種 (接種遅れを取り戻すためのワクチン) について一言
 - ・ A型肝炎
 - ・ B型肝炎
 - ・ ポリオ
 - ・ 麻しん、流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)、風しん (MMR)
 - ・ 水痘 (みずぼうそう)
- 21 特殊な状況におけるワクチン
 - ・ 特殊な就労環境におけるワクチン
 - ・ 慢性疾患を有するティーンのためのワクチン
 - ・ リスクを高める行動に対するワクチン
 - ・ 性的探求前のワクチン
 - ・ 宿泊キャンプ、大学、海外旅行のためのワクチン
- 23 ティーンや若年成人の快適な過ごさせ方
- 24 ワクチンに関するよくある質問と懸念
- 27 ワクチンスケジュール
- 28 見つかりませんか？ ワクチン接種記録の確認
- 30 その他の情報が必要な、保護者とティーンのための情報源
 - ・ ワクチンに関連した情報
 - ・ 渡航情報
 - ・ 家族グループ
 - ・ 思春期の若者とティーン向け資料
 - ・ ソーシャルメディア
 - ・ モバイルアプリ
- 34 予防接種記録

なぜティーンはワクチンが必要なのでしょうか？

思春期までに、子供の免疫系は、あるときは疾患や感染症を介して、また他のときは予防接種を介して、多くのウイルスや細菌にさらされます。いずれの場合であっても、子供の免疫系は免疫記憶を介してこれらの「常習犯」を認識する機能を備えています。

免疫記憶はメモリーT細胞およびメモリーB細胞として知られている細胞内に保持されます。メモリーT細胞は感染症に対する反応を促進する免疫反応の連鎖を引き起こし、またメモリーB細胞は特定の感染症と戦うための抗体を産生します。これらの反応は同時に働いて、完全に感染症を防ぐか、または経過を変化させるかのいずれかによって、疾患を軽症化または罹患期間を短縮化します。

無敵である思春期の若者とティーン
残念なことに(そして彼らの信念に反して!)ティーンは無敵ではありません。

ません。その免疫系はあらゆる感染症と戦う準備はできていません。実際、この年齢層は、特定の感染症に対して特に罹患しやすいのです。理由は次の通りです。

・免疫の減衰 - 幼年時にジフテリア、破傷風、百日咳に対して予防接種を受けていても、少年期の若者(そして成人も)は再び感染しやすくなります。大半の疾患と異なり、これらのワクチンによって提供される防御力は、生涯持続するわけではありません。

・以前の暴露歴がない - 大半のワクチンで予防できる疾患は咳、くしゃみ、または物の共有により簡単に広がりますが、ヒトパピローマウイルス(HPV)のような一部の疾患は、親密な接触を介して広がります。このワクチンは、このウイルスに初めて接触する前に導入する、つまり暴露前に防御免疫を準備する場合、このワクチンの効果が最大となります。



・社会習慣 - 思春期の若者とティーンは本質的に社交的です。残念ながら、彼らが求める新しい経験(宿泊キャンプ、大学の寮、ナイトクラブなど)は、しばしば髄膜炎菌のような細菌による感染症のリスクを増加させるものでもあります。



・変化するウイルス - 6か月以上の子供達や大半の成人と同様、思春期の若者とティーンは、毎年インフルエンザワクチンの接種を受けるべきです。なぜなら、ウイルスはシーズンごとに急速に変化するので、前年に接種したインフルエンザワクチンは免疫力を持たないかもしれないからです。

世界への門出

親は、自分達が傍にいない時に子供が遭遇しうるあらゆるものに対して、子供に準備させたいと考えます。子供に親の価値観を持たせ、優れた意思決定について意見を交わします。安全な道の渡り方や、自転車に乗る際はヘルメットをかぶり、自動車に乗る時はシートベルトを使うことを教えます。子供の友人や成績、食習慣を監視します。もう一つの予防の機会となるのが、ワクチンです。

全てのワクチンは、疾患を引き起こすことなく、疾患を予防するために作られています。異なるタイプの細菌やウイルスに対するワクチンを製造するために、様々な方法が使用されています。

・ウイルスまたは細菌の一部を使用する - HPVや髄膜炎菌のワクチンは、この方法で製造されています。

・細菌が産生する毒素を使用する - ジフテリア、破傷風、百日咳の原因となる細菌は全て、疾患を引き起こす毒素を産生します。したがって、予防するために、ワクチンはトキシイドとして知られている不活化された毒素を含んでいます。

・殺した全粒子ウイルスを使用する - A型肝炎ワクチンはこの方法で製造されています。

・弱毒化された生ウイルスを使用する - MMRワクチンはこの方法で製造されています。

ティーンはどのワクチンが必要ですか？

全ての思春期の若者とティーンは以下のワクチンを接種することが推奨されています。

・ **髄膜炎菌**:2種類の髄膜炎菌ワクチンが認可されており、いずれもティーンに対して推奨されています。

・ **結合型髄膜炎菌ワクチン**は5群の髄膜炎菌のうち4群(A、C、W、Y)から身を守ります。11~12歳の全ての子供への接種と、16歳での追加接種が推奨されています。

・ **B群髄膜炎菌ワクチン**は、髄膜炎菌の最後の群から身を守り、16~18歳の全ての若者に推奨されています。3回目の接種が必要とされる限られた状況を除き、2回接種されます。

B群髄膜炎菌は大学のキャンパスでの大流行の原因となり続けている群です。以前、米国ではワクチンを入手できませんでしたが、他の国々で承認され、数年前に大流行のあったキャンパスにおいて使用することができました。プリンストン大学とカリフォルニア大学サンタバーバラ校における大流行時に一部の学生はその恩恵を受けました。現在では、ティーンが大学へ進学する前に子供の身を守ることができるようになりました。

・ **Tdap**:10年毎の接種が推奨されていた既存の破傷風-ジフテリア(Td)ワクチンは、変更されて百日咳成分を含むようになり(Tdap)、2種類ではなく3種類のこれらの疾患から思春期の若者や成人の身を守ります。この変更は、数か月に渡る咳発作や百日咳による肋骨骨折で苦しむ可能性があった、既存ワクチン接種を受けた人だけでなく、百日咳による苦しみや死亡から守られる年齢でなかった乳児にとっても重要です。11~12歳の思春期の若者は、Tdapワクチンの接種を1回受けるべきです。このワクチンを接種されていない13~18歳の若者も、1回接種を受けるべきです。

DTaPとして知られている乳幼児用のワクチンは、少年期の若者や成人に推奨されません。なぜなら、被接種者100人に2、3人はワクチン接種部位である腕や脚に顕著な腫れが生じたためです。新型には、副反応発生の可能性はるかに少なくなる量のジフテリアと百日咳の成分を含んでいます。製剤中で成分が減量されていることを示すために、Tdapという名前の「d」と「p」が小文字になっています。

・ ヒトパピローマウイルス(HPV)

:HPVは米国および世界中で最も一般的な性感染症です。HPVは子宮頸部癌、肛門癌、陰部疣贅を始め、時として頭頸部癌の原因となります。ワクチンは、感染する前のみ効果を示し、11~12歳の若者は他のワクチン接種を既に推奨されているので、HPVワクチンも同様にこの年齢層に推奨されました。

HPVワクチンは2回または3回の接種が必要です。15歳未満の場合は2回の接種が必要であり、2回目は初回接種後6~12か月後に接種されます。15歳以上の場合は3回の接種が必要です。2回目は初回接種の1~2か月後に接種されます。3回目は初回接種の6か月後に接種されます。

当初は、HPVワクチンは女子にのみ推奨されていましたが、現在は、男子にも安全で有効であることが研究により証明されています。男子へのワクチン接種により、陰部疣贅や一部の癌を予防します。また、ウイルスの伝播は性的パートナー間で低減されます。

9歳以上の子供から26歳までの若年成人はHPVワクチンの接種を受けられます。

・ **インフルエンザ**:月齢が6か月以上の誰でも、毎年インフルエンザワクチンの接種を受けることが推奨されています。

・ 中学、高校、大学の入学時は、ワクチンの接種遅れを取り戻すのにはとてもよい機会です。子供がA型肝炎、B型肝炎、ポリオ、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん(MMR)および水痘に対して免疫を持っていることを必ず確認してください。



ティーンに推奨されるワクチン

髄膜炎菌ワクチン

髄膜炎菌とは何ですか？

髄膜炎菌は10人に1人の鼻や咽頭の粘膜に定着している細菌です。ほとんどの人は感染しても何の症状もありません。

子供が髄膜炎菌に罹患するリスクはどのくらいですか？

結合型髄膜炎菌ワクチンが導入される以前の米国においては、毎年約2,500人が髄膜炎菌にかかり、約120人が感染症により亡くなりました。生存者のうち約400人に、けいれん発作、四肢欠損、腎疾患、難聴、精神遅滞などの恒久的な障害が残りました。髄膜炎菌に罹患する可能性が最も高いのは2歳未満の子供ですが、髄膜炎菌で死亡する可能性が最も高いのはティーンです。

最近、咽頭の粘膜に支障があり、大勢のグループの人達と親密な接触をした人は、髄膜炎菌による感染症のリスクが高まります。いくつかのグループがこれらの分類に該当し、鼻、喉または肺へ感染症を最近起こした人、寮に住む大学1年生、兵舎に住む新兵、タバコの煙や室内の薪ストーブに暴露された人、バーやナイトクラブへ行く人、飲み物のグラスやタバコを共有する人などが含まれます。

どのようにして髄膜炎菌に感染するのでしょうか？

髄膜炎菌は咳やくしゃみを介して人から人へ伝播されます。

髄膜炎菌ワクチンとはどんなものですか？

2種類の髄膜炎菌ワクチンが入手可能であり、ティーンへの使用が推奨されています。結合型髄膜炎菌ワクチンは、菌を覆うタンパク質からと、5群の異なる髄膜炎菌のうち4群(A、C、WおよびY)からとの精製糖類を使用して製造されます。ワクチンはまた、髄膜炎菌の一部ではないものの、ワクチンにおける髄膜炎菌糖類に対する免疫の向上に役立つ無害なタンパク質を含んでいます。タンパク質は糖類と結合するため、それらは結合型髄膜炎菌ワクチンと呼ばれます。

B群髄膜炎菌を覆っている糖類は、体内で発見されたタンパク質と類似しているため、同様の技術をワクチンの開発に採用できませんでした。そのため、B群髄膜炎菌ワクチンは、タンパク質からの精製糖類ではなく、B群髄膜炎菌からの2～4種類のタンパク質を使用して製造されます。

髄膜炎菌ワクチンは全ての髄膜炎を予防しますか？

いいえ。髄膜炎は髄膜および脊髄膜の感染症とされています。しかし、髄膜炎菌は髄膜炎の唯一の原因ではないので、髄膜炎菌感染症の予防は髄膜炎の発症数を減らすことがあっても、全ての髄膜炎を予



防するものではありません。ワクチンはヘモフィルスインフルエンザb型菌や肺炎球菌など、いくつかの乳幼児期における髄膜炎の原因を予防しますが、その他はワクチンで予防することはできません。

髄膜炎菌ワクチンは安全ですか？

はい。髄膜炎菌ワクチンは安全です。

•一部のティーンは接種部位の疼痛または発赤を始め、発熱、頭痛または疲労感などの軽度の副反応を生じることがあります。

•ティーンによっては、ワクチン接種後に失神を起こす傾向があるため、ワクチン接種後約15分間は医師のオフィスで座るか横になっているべきです。

•結合型髄膜炎菌ワクチンが筋力低下、四肢の灼熱感や刺痛、筋緊張の消失、麻痺などを起こすギランバレー症候群(GBS)を引き起こすのではと疑問を持っている人もいます。複数の研究によると、それはGBSの原因とならないことが証明されています。

髄膜炎菌ワクチンの有益性はそれらのリスクを上回りますか？

毎年、米国では、髄膜炎菌感染症による極度の衰弱または死亡が発生しています。いずれのワクチンも重篤な副反応の原因とならないため、有益性は明らかにそのリスクを上回ります。



ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン

ヒトパピローマウイルスとは何ですか？

ヒトパピローマウイルス (HPV) は陰部と子宮頸部内膜に感染します。多くの型のHPVがあり、大抵の人は自身の感染すら認識しておらず、型によっては感染が長期間持続します。一部の型のHPVは性器疣贅を引き起こし、他の型は子宮頸部、頭部、頸部、肛門、膣、外陰、陰茎の癌の原因となります。多くの場合、癌は感染した後、20～25年まで進行することはありません。

子供がHPVに罹患するリスクはどのくらいですか？

HPVワクチンが導入される前、米国では毎年600万人が新たにHPVに感染していました。これらの感染の約半数は15～24歳で起こっていました。HPVによる感染症の多くは性的活動の開始から最初の2年間で起こるため、性的探索が開始される前にHPVワクチンの接種を受けることが重要です。

米国においては約2,000万人が既に感染しています。そして毎年、約25,000人がHPVによる癌を発症します。

どのようにしてHPVに感染するのでしょうか？

HPVは、大半の場合(唯一の原因ではありませんが)、性交時における性器の接触で伝播します。コンドームは有用ですが、完全に予防するわけではありません。

9種類のHPVを予防するワクチンが最近、入手可能になったため、古い型のワクチンを接種された一部の人は、9価型の接種を受けるべきかについて考えています。新しいガーダシル9価ワクチンは癌の原因となるHPVの追加の型に対して予防効果を示すので、既にHPVワクチンの接種を受けた人にこのワクチンを接種することは合理的かも知れません。

HPVワクチンとはどんなものですか？

HPVワクチンは、HPVの表面タンパク質を使用して製造されています。ガーダシル9として知られているこのHPVワクチンは、肛門や性器疣贅を引き起こす2つの型と共に、子宮頸部、肛門、性器、頭部、頸部の癌の原因となる7つの型に予防効果を示します。

HPVに対する初期の暴露は、一般的に全ての型のHPVへの暴露を含んでいないので、既に性的探索を開始した若者であってもHPVワクチンの接種から利益を得る可能性があります。

HPVワクチンは有効ですか？

一般的に、HPVは感染後数十年経たないと子宮頸癌を引き起こすことがないので、どうして科学者にワクチンの有効性が分かっているのかと不思議に思われてきました。実際、その答えは、子宮頸部細胞診検査において顕微鏡で子宮頸部細胞が観察された時の細胞像で明らかにすることができます。女性がHPVに感染し、その感染が速やかに消失しない場合、子宮頸部細胞は、子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)と呼ばれる、前癌病変そして癌化を起こし始めます。HPVワクチンは、子宮頸癌の進行において必要となる段階である、CINを予防することが証明されています。



HPVワクチンは安全ですか？

はい。HPVワクチン接種後の副反応には、接種部位の疼痛、腫れまたは発赤が含まれる可能性があります。ワクチン接種後に失神を起こすことがあるので、ワクチン接種後約15分間、医師のオフィスで座っているか横になっていることが推奨されます。

血栓症、脳卒中、心臓発作、慢性疲労症候群、そして死亡さえもHPVワクチンに起因するとしている人もいます。しかし複数の研究によると、ワクチンがこれらのいずれの症状の原因にならないことが証明されています。

HPVワクチンの接種を受けた女子や女性でも子宮頸部細胞診検査を受ける必要がありますか？

はい。HPVワクチンは子宮頸癌を引き起こす全ての種類のHPVを予防するわけではないため、女性は依然として感染し、それが後に子宮頸癌に進行する可能性があります。したがって、女性はこの重要な防止策を使用し続けるべきです。

HPVワクチンの接種を受けた人でも性感染症を心配する必要がありますか？

はい。HPVワクチンは全ての種類のHPVを予防するのではなく、また梅毒、淋菌、クラミジア、ヘルペスなど、他の性感染症を予防するわけでもありません。

HPVワクチンの有益性はそれらのリスクを上回りますか？

毎年、何千人もがHPVに罹患し、一部はその感染症により亡くなっています。ワクチンはあらゆる重篤な反応の原因とはならないため、ワクチンの有益性は明らかにリスクを上回ります。

破傷風-ジフテリア-無細胞性百日咳(Tdap)ワクチン

破傷風

破傷風とは何ですか？

破傷風は、一般的にはティーンよりも年齢を重ねた成人が感染する細菌です。破傷風は、顎の筋肉を含む、重篤で痛みを伴う筋肉のけいれんの原因となる毒素を産生します。この理由により、破傷風はしばしば、開口障害と呼ばれます。喉の筋肉のけいれんは気管を閉塞する可能性があり、窒息による即死の原因となりえます。破傷風毒素は、重篤で永続的な心臓障害の原因となる可能性もあります。破傷風に罹患した約10人のうち約3人が疾患により死亡します。

子供が破傷風に罹患するリスクはどのくらいですか？

米国においては毎年、約40人が破傷風に罹患し、何人かが亡くなっています。

どのようにして破傷風に感染するのでしょうか？

破傷風菌は土壌に住んでおり、切り傷や刺し傷の後に皮膚から侵入する可能性があります。破傷風菌は土壌に常在するので、感染リスクを回避することはできません。その上、疾患は人から人へ伝播されるのではないので、地域社会での予防接種済みの人口が何人であろうと、破傷風に罹患する個人のリスクは、変わりません。

ジフテリア

ジフテリアとは何ですか？

ジフテリアは、一般的に子供と思春期の若者が感染する細菌です。しかし、他国における最近の大流行は、主に免疫力が低下してきている成人において発症しています。

ジフテリア菌は喉の奥に厚い膜を形成する原因となり、嚥下や呼吸を困難にします。また、細菌は毒素と呼ばれる有害なタンパク質を産生し、それが心臓、腎臓、神経系を侵す可能性があります。

子供がジフテリアに罹患するリスクはどのくらいですか？

米国においては毎年、2~5人がジフテリアに罹患しています。

どのようにしてジフテリアに感染するのでしょうか？

ジフテリアはとても感染しやすく、咳やくしゃみで伝播します。

百日咳

百日咳とは何ですか？

百日咳は全ての年齢層が感染する細菌です。この細菌は、気管閉塞を引き起して、痛みを伴う咳発作の原因となる、粘稠性がある粘液を生じる何種類かの毒素を産生します。気管が狭窄した状態で呼吸をすると、ゼーゼーする(whooping)音がします。これは、英語で百日咳が「whooping cough」と呼ばれる所以です。乳児においては、あえぎ呼吸は致命的になる可能性があります。成人において、咳発作は、肋骨骨折、発作、ヘルニ

アを引き起こす可能性があります。百日咳は、肺炎、発作、永久的な脳障害の原因にもなりえます。

子供が百日咳に罹患するリスクはどのくらいですか？

百日咳はかなり一般的な疾患ですが、診断を見逃されることがよくあります。推定で、米国では毎年、数十万の発症例があり、約15~20人が亡くなっています。

どのようにして百日咳に感染するのでしょうか？

百日咳は、咳や気道分泌物との直接接触を介して伝播されます。

Tdapワクチン

Tdapワクチンとは何ですか？

Tdapは3種類の異なる細菌に対して予防効果を示します。このワクチンはそれぞれの細菌により産生された毒素を抽出し、化学物質で不活化することにより製造されます。この化学物質はその後、精製・不活化された毒素(トキソイドと呼ばれる)を残して洗浄されます。

Tdapは百日咳成分を含んでいるのでTdワクチンとは異なります。Tdapワクチンは、減量したジフテリアと百日咳のワクチンを含んで

いるので、乳幼児や年少児に使用されるDTaPとは異なります。

Tdapワクチンは百日咳を予防しますか？

はい。複数の医学研究において、Tdapワクチンは10人のうち9人の被接種者において百日咳の予防効果が証明されました。

Tdapワクチンは安全ですか？

Tdapワクチンの接種を受けた少数の人において、接種部位の痛み、発赤、腫れ、および、微熱、頭痛、倦怠感、胃の不快感を生じることがあります。頻繁ではありませんが、特に成人においては、肩から肘にかけての腫脹を含む可能性がある、増強した局所反応が出現します。

Tdapワクチンの有益性はそれらのリスクを上回りますか？

米国においては毎年、これらの3つの疾患に感染し、罹患者の一部はそれらによって亡くなっています。副反応は時として出現しますが、これらの副反応は永続的な障害や死亡を引き起こさないため、このワクチンの有益性はリスクを上回ります。



インフルエンザワクチン

インフルエンザとは何ですか？

インフルエンザは呼吸器系に感染し、鼻、気管、気管支、細気管支、肺の粘膜を攻撃するウイルスです。

子供がインフルエンザに罹患するリスクはどのくらいですか？

米国においては毎年、インフルエンザにより約200,000人が入院し、数千人から数万人が亡くなっています。残念なことに、入院患者や死者の一部は、それ以前は健康であった子供やティーンです。

どのようにしてインフルエンザに感染するのでしょうか？

インフルエンザは、咳、くしゃみ、また感染した気道分泌物との直接接触によって伝播されます。



インフルエンザワクチンとは何ですか？

何種類かの異なるインフルエンザワクチンがあります。

・不活化インフルエンザワクチン (flu shot) は、インフルエンザウイルスを抽出し、それらを鶏卵で培養し、精製し、化学的に不活化することによって製造されるため、ワクチン自体はインフルエンザの原因にはなりません。

・新しい型の一つは、鶏卵ではなく哺乳動物細胞で培養されます。したがって、鶏卵タンパク質を減量しています。

・もう一つの新しい型は、1種類のみインフルエンザウイルスからのタンパク質を使用して製造されるので、鶏卵アレルギー患者にも接種することが可能です。

両方の新型ワクチンは、最近18歳以上用に限って認可されました。

インフルエンザワクチンは有効ですか？

はい。ワクチンに含まれるインフルエンザ株は、世界の他の場所での流行に基づいているので、ある年におけるワクチンは他の年のものよりも適合性(および有効性)に優れています。しかし、一般的にはインフルエンザワクチンは100人の被接種者のうち約70人に対して、重篤なインフルエンザ感染症の予防効果を示します。

インフルエンザワクチンは安全ですか？

インフルエンザワクチンの接種を受けた人は、接種部位に痛み、発

赤、腫れを生じることがあります。稀に、被接種者は蕁麻疹などのアレルギー反応を発症し、これはワクチンに含まれる鶏卵タンパク質が原因である可能性が高いです。ほとんどのインフルエンザワクチンは鶏卵を使用して製造されており、人によっては鶏卵に対して重度のアレルギーがありますが、ワクチンに含まれる鶏卵タンパク質の量は重度のアレルギー反応を引き起こすには不十分な量でしかありません。しかし念のため、鶏卵アレルギーを有する人は、接種後15分間、ワクチン提供者のオフィスに留まって様子を見るべきです。

インフルエンザワクチンの有益性はそれらのリスクを上回りますか？

インフルエンザウイルスにより毎年、数千から数万人の死者が出ますが、その一部はそれ以前は健康であった人達です。それに加えて、毎年約200,000人がインフルエンザによる発熱、クループ、気管支炎、細気管支炎、肺炎で入院します。ワクチンは重篤な反応の原因とはならないため、ワクチンの有益性は明らかにリスクを上回ります。

他のウイルスは呼吸器疾患や感冒の原因となるため、インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスに対してのみ予防効果を示すことを覚えておくことが重要です。

キャッチアップ接種(接種遅れを取り戻すためのワクチン)について一言

A型肝炎

A型肝炎は肝臓に感染するウイルスです。それに感染した人の大半は何の症状もありますが、人によってはA型肝炎への感染は食欲喪失、嘔吐、嘔気、倦怠感、黄疸(眼球と皮膚の黄染)の原因となります。稀に、A型肝炎は肝臓の致死的な激しい感染症の原因となります。A型肝炎は、人から人へ、または汚染された食物や水を介してのいずれかの経路で広がることがあります。

A型肝炎ワクチンは、A型肝炎ウイルスを精製し、化学物質で不活化することにより製造されます。ワクチンは全ての1歳児に推奨されており、6か月間隔で2回の注射で接種されます。

副反応は深刻でなく、頭痛、接種部位の疼痛、熱感、腫れを含むことがあります。

B型肝炎

B型肝炎は肝臓に感染するウイルスです。多くのB型肝炎感染者は自身が感染していることに気づいておらず、人によっては肝硬変や肝臓癌につながる長期的な不顕性感染が持続します。B型肝炎感染症の症状は、食欲喪失、嘔吐、嘔気、倦怠感、黄疸を含みます。B型肝炎は、性的接触、出産時の母子感染、歯ブラシ、髭剃りや爪切りなど、少量の血液や唾液を含む共有物を介して伝播する可能性があります。

B型肝炎ワクチンは、B型肝炎表面タンパク質と呼ばれる、ウイルスを取り囲むタンパク膜から製造されます。ワクチンは2〜3回の注射で接種されます。このワクチンは1992年より、出生時の接種が推奨されたため、思春期の若者とティーンは多くは接種済みです。しかし、接種歴のない人はB型肝炎ワクチンを接種すべきです。大半の場合において、3回のB型肝炎ワクチンが必要とされ、2回目の接種は初回接種から1〜2か月あけて、3回目の接種は初回接種から4か月あけて接種されます。一部の11〜15歳の若者においては、2回接種型のワクチンを受けることも可能で、この場合2回目の接種は初回接種から4〜6か月後に行われます。

副反応は一般的に深刻ではなく、接種部位の疼痛、発赤、圧痛の他、発熱、頭痛、倦怠感、過敏性などを含みます。稀に、被接種者は、蕁麻疹、発疹、血圧低下などを伴う重篤なアレルギー反応を引き起こします。このタイプの反応は、100万人の被接種者に対して約1人の割合でのみ発症し、ワクチン接種後30分以内に生じることが普通です。

ポリオ

大半の思春期の若者とティーンはポリオワクチンの接種を受けていますが、推奨回数の接種を受けていなかった場合、遅れを取り戻す必要があります。ポリオは、大半の場合には軽度な腸管感染症の原因となるウイルスにより発症します。しかし、約200人に1人の割合で、このウイルスは脳や脊髄にも感染し、麻痺の原因となります。ポリオは、汚染された食物、手、物質を口に入れた際に伝播され、非常に感染しやすいウイルスです。

ポリオワクチンは、人に感染する3種類の異なる型のポリオから製造されます。これらのウイルスは精製され、化学物質で不活化されるので、ワクチンによりポリオに感染することはありません。このワクチンは注射で接種されます。過去に接種を受けていない思春期の若者とティーンは3回の接種が必要です。過去に何回か接種を受けた人は、必要とする接種の回数が少なくなる場合があります。

ポリオワクチンは接種部位に疼痛、発赤、圧痛を引き起こす可能性があります。

麻しん、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風しん(MMR)

麻しん、流行性耳下腺炎、風しんは、異なる疾患を引き起こす3種類のウイルスです。麻しんは非常に感染しやすく、感染した人が立ち去った後2時間もの間、空気中に残存しているウイルス粒子を介して伝染する可能性があります。流行性耳下腺炎と風しんは共に、咳やくしゃみなどの気道分泌物を介して感染します。この3種類全ての感染症は妊娠女性にとって非常に危

険であるので、女性は子供を作ろうと決める前にワクチン接種の受けることが重要です。

麻しん、流行性耳下腺炎、風しんワクチンは、疾患の原因とならない弱毒化された生ウイルスから製造されています。それぞれのワクチンウイルスを混合してMMRワクチンが形成されます。MMRワクチンは注射で接種し、2回の接種を要します。思春期の若者とティーンでは、接種間隔は4週間です。この年齢層の一部は、既に年少期に1回接種を受けているので、2回目の単一接種だけが必要である場合があります。

MMRワクチンは一部の被接種者において、接種部位の疼痛、発赤、圧痛の他、発熱、発疹など、軽度の副反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種を受けた24,000人に約1人の割合で、血液凝固に役立つ血流内細胞である血小板数が一時的に減少する可能性があります。また、一時的な関節炎や関節腫脹も、少数のワクチン被接種者において生じることがあり、その大半は思春期の女子と成人女性です。



水痘(みずぼうそう)

みずぼうそうとしても知られている水痘は、発熱と身体全体にできる約300～500の水疱の原因となるウイルスです。重症例においては、ウイルスは肺炎、脳炎(脳浮腫)、「人食い」バクテリアによる皮膚感染症を引き起こすこともあります。ティーンと成人は、より合併症を起こしやすい傾向があります。妊娠中の感染は先天異常、自然流産、胎児死亡を引き起こすことがあります。みずぼうそうは咳やくしゃみにより広がり、非常に感染しやすい疾患です。

みずぼうそうワクチンは、弱毒された生ウイルスから製造されます。ワクチンは注射で2回接種されます。2回目の接種が推奨されたのは比較的最近のことなので、思春期の若者やティーンによっては年少時に1回のみの接種を受けていることがあります。したがって、この場合、1回の追加接種が必要となります。

みずぼうそうワクチンは接種部位の疼痛、発赤、圧痛の他、少数の被接種者において、数個の水疱が出現することがあります。



特殊な状況におけるワクチン

ティーンは新たな経験をし、若年成人へと成長しますが、新しい出会いは健康上のリスクをもたらすことがあります。

特殊な就労環境におけるワクチン

ティーンが医療現場や血液と接触する可能性がある環境で雇用されている場合、全てのワクチン、特に、B型肝炎のような血液や体液を介して伝染する疾患の予防ワクチンについて接種遅れがないようにしておくことが重要です。

ティーンが大人数の集団と接触する可能性がある環境で雇用されている場合、百日咳、麻しん、インフルエンザ、みずぼうそうなどのような高い伝染力を持つ疾患の予防ワクチンについて接種遅れがないようにしておくことが重要です。

破傷風菌は土壌に常在しており、傷口を介して体内に侵入した後に感染の原因となることがあるので、ティーンが、芝の手入れ、農業、造園のような屋外での環境で雇用されている場合、破傷風を含むワクチン接種を最近受けているべきです。

慢性疾患を有するティーンのためのワクチン

残念ながら、若年者であっても、時として、免疫系が低下する疾患と診断される場合や、ワクチンで予防できる疾患に一層罹患しやすく

なる投薬を必要とする場合があります。例えば、喘息の人は、インフルエンザや肺炎球菌のような肺へ感染する疾患に、より罹患しやすいのです。

糖尿病、喘息、慢性肺疾患、腎疾患、心疾患、鎌状赤血球症、癌や、HIVまたはAIDSのような免疫疾患の治療中である場合、子供にワクチン接種が必要であるか、また治療中に接種すべきでないワクチンがあるかを判断するため、かかりつけの医療提供者に確認する必要があります。例えば、ステロイドによる治療中である一部の人は、みずぼうそうやMMRなどのような弱毒生ワクチンの接種を受けるべきではありません。

リスクを高める行動に対するワクチン

ティーンはしばしば、自分は無敵であると信じ込んでしまうので、いつも自分の身に気を払うとは限りません。疲れ切って、バランスの取れた食事を摂取できない場合、特定の疾患に罹患しやすくなります。加えて、喫煙、飲み物の共有、刺青やピアスをする事、個人ケア製品(歯ブラシ、髭剃り、爪切りなど)の共有、非合法薬物道具の共有などの行為は、若年成人を、肺炎球菌、髄膜炎菌、B型肝炎などのワクチンで予防できる疾患に罹患する可能性をさらに高めます。

性的探求前のワクチン

親は、ティーンとその性的な探求について考えることを好みませんが、現実には、彼らは早晚、性的な出会いに関与することになるのです。親は、そのような出会いが始まる前にワクチン接種を受けさせることにより、特定の状況から子供を保護することを徹底できます。

・女子は、妊娠する前に、風しん(MMRのうちの「R」)およびみずぼうそうワクチンの接種を受けているべきです。なぜならば、妊娠中にこれらの疾患に感染した場合、胎児に障害が生じたり、赤ちゃんが死亡したりする可能性があるからです。

・妊娠中のティーンがインフルエンザシーズン中にインフルエンザに感染した場合、インフルエンザによる合併症が発症しやすくなるため、インフルエンザワクチンの接種を受けるべきです。また、体内で産生されたインフルエンザに対する抗体が胎盤を介して送られ、赤ちゃんを守ります。

・男子も女子もヒトパピローマウイルス(HPV)とB型肝炎ワクチンの接種を受けるべきです。HPVとB型肝炎は、性的接触を介して伝播される可能性があります。



宿泊キャンプ、大学、海外旅行のためのワクチン

子供が家から離れて冒険を始める時、今まで暴露されたことがないウイルスや細菌に出会う可能性があります。例えば、髄膜炎菌は10人に1人の鼻や喉に無害なまま常在していますが、他人と宿舎を共有していると、感染しやすいタイプに暴露されるかもしれません。

子供が海外旅行に行く機会がある場合、追加のワクチンや投薬を必要とするかもしれません。これを確認する最善の方法は、旅行の数か月前に子供を渡航医療外来に連れて行くことです。渡航先、滞在地、参加する活動などの要素が、健康上の必要性を決定することになります。最寄りの渡航医療外来の所在地の見つけ方を含む、旅行情報の詳細は本書の資料部分に記載されています(30ページ)。

寮に住む大学1年生はキャンパスに住んでいない同級生と比べて、5倍以上も髄膜炎菌感染症に罹患しやすいことが複数の研究により証明されています。

ティーンや若年成人の快適な過ごしせ方

乳幼児や年少児の子供がワクチン接種を受ける現場は見るに堪えがたかったかもしれませんが、それと同様に、針恐怖症がある場合、ティーンや大きくなった子供をワクチン接種に連れて行くのは、なおさら堪えがたいことであるかもしれません。もはや、抱きかかえて親の膝に乗せ、安心させることもできません。受診に連れて行くことでさえも困難です。しかし、試してみることでできるいくつかを、以下に挙げてみました。

親ができること:

・他の問題と同様、ティーンは、親がワクチンの重要性を認識している場合、ワクチンについてより理解的になります。受診前に、ティーンとワクチン接種について話し合い、あらゆる質問に答え、安心感を与えましょう。

・受診の際は、予防接種記録を持参し、医療機関のスタッフから提供された資料を読み、受診後の鎮痛剤の使用について確認しましょう。

・受診後は、よく水分を摂取させてください。今後24時間はティーンの食欲が低下することがあることを認識しましょう。接種部位の発赤や腫れに対して冷たく濡れた布を使用します。発熱に対してはティーンを冷たい風呂やシャワーに入れます。かかりつけ医の指示通りに鎮痛剤を与えてください。異常な反応が起こった場合はその医療機関へ連絡しましょう。

ティーンができること:

・受診の際は、気晴らしとなりそうな物を持参したり、または気を散らしてくれる誰かに付き添ってもらいましょう。親、兄弟、友人と話をし、音楽を聴く、携帯電話でテキストメールやゲームをする、本を読むなど、差し迫ったワクチンの注射からティーンの心情を解き放ってくれるかもしれません。

・筋肉の力を抜き、針が刺されている間は見ないように、ティーンに言いましょ。処置がなされている間は、短い深呼吸を数回して、その後、長い呼吸を数回することも、助けになるでしょう。

・冷たさの感覚は通常、痛みの感覚を凌駕するので、アルコールパッドをもらい、それでティーンに自分の手首をこすらせ、注射の間、その部位に息を吹きかけさせてください。

・最後に、穿刺の痛みはワクチンで予防できる疾患と比べると大したことではないことを再認識させましょう。

思春期の若者とティーンは、身体的な束縛を使用せずに、快適にワクチンの接種を受けるべきです。

ワクチンに関するよくある質問と懸念

ワクチンは安全ですか？

この質問に納得のいく答えを出すには、まず私達が「安全」と言うときに、それが何を意味しているかを定義しなければなりません。「安全」という言葉を、完全にリスクがないと言う意味で使用する場合、ワクチンは100%安全なわけではありません。全ての薬剤と同じように、ワクチンには、接種部位の疼痛、圧痛、発赤などの軽度の副反応があります。そして、ワクチンによっては非常に稀ではありますが、より重篤な副反応があるものがあります。

しかし、完全に無害なものはありません。体内に取り込むもの(ビタミンや抗生物質)はどんなものであっても副反応を起こす可能性があります。もっとも日常的な活動であっても隠れた危険性と関連することがあります。例えば、シートベルトは、事故の際に、痣のような軽度の怪我の原因になる可能性があります。しかし、シートベルトの無着用時のリスクと着用時のリスクを比較した場合、シートベルト着用の決断をするのは容易なことです。同様に、推奨されている全てのワクチンにおいて、有益性はリスクを上回ります。

まだワクチンが必要ですか？

はい。ワクチンは3つの理由により、依然として提供されています。

•一般的な疾患(みずぼうそう、百日咳など)の場合、ワクチンを接種しないという選択は、自然感染のリスクを選ぶということです。例えば、



毎年、数十万人が百日咳に罹患し、一部の人は疾患により死亡しています。したがって、ワクチンの接種はまだ重要なことです。

•一部の疾患(麻しん、流行性耳下腺炎など)は、頻度は低いですが依然として米国で発生しています。予防接種率がさらに低下した場合、これらの疾患は再び大流行するでしょう。

•一部の疾患(ポリオ、風しん、ジフテリアなど)は、米国では、完全にまたは事実上、排除されていますが、世界の一部では依然として発生しています。海外旅行が一般的になっているので、これらの疾患はたった一回の飛行機による移動で米国に戻ってきます。

なぜ思春期の若者やティーンにワクチンが必要なのですか？

少年期の若者やティーンは、以下のいくつかの理由によりワクチンが必要です。

•追加免疫のため - 一部のワクチンは生涯に渡る十分な免疫を提供しないので、子供(そして成人も)が年齢を重ねることにより、追加接種が必要となります。Tdapワクチンがその例です。

•まだ遭遇していない疾患から身を守るため - 一部のワクチンはまだ暴露されることがないウイルスから身を守ります。HPVワクチンがその例です。

•変化するウイルスから身を守るため - 一部のウイルスは、「適者生存」の方法によりそれらの環境に順応するので、古いワクチンはもはやその疾患に対する予防効果がありません。インフルエンザワクチンがその例です。

•特定の年齢層が感染する傾向のある疾患から身を守るため - 例えば、髄膜炎菌ワクチンが重要なものは、2歳を過ぎるとこの疾患を罹患する可能性は減少しますが、思春期前後において再び増加し始めるからです。



ワクチンは免疫系を弱めますか？

いいえ。実際、ワクチンは免疫系を弱める感染症を予防します。なぜならば、ワクチンに含まれる細菌やウイルスは、自然な細菌やウイルスを高度に弱毒化されたものであり、それらが免疫系を弱めることはありません。

むしろ、自然なウイルスへの感染は免疫系を弱める場合があります。例えば、インフルエンザウイルスに感染した人は、重篤な細菌性肺炎へ進行するリスクがあります。また、みずぼうそうウイルスに感染した人は、「人食い」バクテリアによる重篤な皮膚感染症へ進行するリスクがあります。

ワクチンは、多発性硬化症、糖尿病、喘息などの長期的な疾患の原因となり得ますか？

複数の研究によると、ワクチンが自閉症、糖尿病、多発性硬化症、アレルギー、喘息、永続的な脳障害の原因とならないことが証明されています。

一つの出来事が別の出来事の前に生じた場合、それらに関連性があるのではないかと疑うことがあります。例えば、沢山タバコを吸った人が肺癌になることがあります。しかし、科学者が、喫煙は肺癌の原因となるかを調査することを希望し、1950~1960年代に行われたいくつかの研究は、喫煙者と非喫煙者における肺癌の発症率を比較しました。最も優れた研究は、2つのグループの人について、年齢、全体的な健康状態、投薬歴などを一致させ、両グループの唯一の違いが喫煙の有無であることを徹底しました。この結果は明確です。喫煙は肺癌の原因となりました。

同様に、携帯電話を使用した人が脳腫瘍になることがあります。携帯電話が脳腫瘍の原因となるかという疑問に答えるために、携帯電話を使用した人と使用しなかった人について脳腫瘍の発生が比較されました。ここでも、両グループの条件を一致させ、グループ間における唯一の相違点が携帯電話の使用の有無であることに徹底しました。この結果もまた明確です。携帯電話は脳腫瘍の原因となりませんでした。

ワクチンはほとんど誰にでも接種されるため、慢性疾患を有する多くの人もワクチンの接種を受けるでしょう。そして、これらの人の中には、慢性症状の発現と近い時期にワクチンを受けることもあるでしょう。問題は、「ワクチンがその疾患の原因であったか？」ということです。この問題に答えるための最良の方法は、喫煙や携帯電話について説明したものと同様の研究を行うことです。全ての潜在的な関連性が研究されたわけではありませんが、多くの研究が実施されました。したがって、ワクチンが、自閉症、糖尿病、多発性硬化症、アレルギー、喘息、永続的な脳障害の原因とならないことが判明しています。



ワクチンスケジュール

ワクチン	11～12歳	13～18歳
髄膜炎菌 ・結合型	11～12歳で1回目接種 16～18歳で2回目接種	13～15歳:1回目接種、 その後16～18歳で追加接種 16～18歳:1回接種
・B群		16～18歳:2回接種
Tdap	1回接種	以前に接種歴がなければ1回接種
HPV	初回接種後6～12か月後に2回目接種	13～14歳:6～12か月の間隔をあけて 2回接種 15～18歳:以前に接種歴がなければ 3回接種、接種が開始されている 場合は残りの回数を接種
		11～18歳
インフルエンザ		毎年1回接種
A型肝炎 [†]		2回接種
B型肝炎 [†]		2または3回接種
ポリオ [†]		3回接種
麻疹、流行性耳下腺炎、風しん(MMR) [†]		1または2回接種
みずぼうそう [†]		1または2回接種

† 子供のワクチン接種歴により接種遅れを取り戻すためのワクチン注射が必要となる場合があります。



見つけませんか？ワクチン接種記録の確認

宿泊キャンプ、最初の仕事、大学などが加わり、子供の世界が広がっていくに連れて、ワクチン接種記録を求められる機会があるかもしれません。

親が子供の予防接種記録のコピーを持っていることもありますが、持っていないことが多いでしょう。子供の接種記録を見つけれない場合、どうすればよいでしょうか？

・直近に利用した医療提供者に確認しましょう。医療提供者を変更したことがある場合は、以前の医療提供者、特に、就学前に診てもらった医師に確認する必要があります。

・子供の学校はしばしば接種記録のコピーを保持していることがあるので、確認してみてください。

・州保健局が予防接種登録簿を保持しているのであれば、コピーを取得できるかもしれません。

・思いがけない場所に接種記録のコピーがあるかもしれないので、育児日誌やあなた古い健康記録を確認してみてください。

・母校やキャンプの用紙類にもその情報があるかもしれません。

子供が既にワクチンを接種されている場合、再度ワクチンを接種すると害になるとの懸念を持っている親も多いですが、追加のワクチン接種はその疾患に暴露されるのと同様であるため、その疾患に対する免疫を強化するのに役立つので安心してください。

子供の予防接種記録を見つけることができない場合はどうしましょうか？

子供の予防接種記録が見つからない場合、以下が必要になる場合があります。

・血液検査を受ける - 血液検査は、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、みずぼうそう、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、ジフテリア、ポリオなどのワクチンで予防できる疾患の免疫能を判定するのに役立つことがあります。しかし、血液検査でそれらの疾患のうち一つ以上に免疫を有していないことが明らかになった場合、ワクチンの接種を受ける必要があるでしょう。ワクチンの追加接種が害になることはないので、血液検査をせずに、問題となっているワクチンの接種を受けることを選択する保護者もいます。

・ワクチン接種を受ける - 免疫能を確認する血液検査がない場合、または血液検査で必要なワクチンが明らかになった場合のいずれかにより、一部のワクチンの接種が必要となることもあります。



血液検査の関連費用やワクチン接種スケジュールに追いつくための受診に対する追加の自己負担金が発生するかもしれません。ワクチンごとに、初回接種後どのくらいの期間をおいて追加接種ができるのかについての固有の条件があります。

医療提供者と共に接種方針を決定したら、一連のワクチン接種を完遂するためにスケジュールを設定することができます。医師が保持する接種記録に加え、追加接種を受けるたびに自身の接種記録への記入を求めましょう。

その他の情報が必要な、保護者とティーンのための情報源

ワクチンに関連した情報

インターネットの情報源

・フィラデルフィア子供病院 (The Children's Hospital of Philadelphia) のワクチン教育センター (VEC: Vaccine Education Center)

vaccine.chop.edu

・VECはwww.prevent-HPV.orgでHPVに関する質疑応答ページを設けています。

・米国疾病予防管理センター (CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

www.cdc.gov/vaccines/who/teens

・一般人と医療従事者のためのワクチン情報 (Immunization Action Coalition - IACのプログラム) www.vaccineinformation.org

・Vaccinate Your Family (Every Child by Two - ECBTのプログラム)

www.vaccinateyourfamily.org



書籍

・Vaccines and Your Child: Separating Fact from Fiction (ワクチンと子供: 事実と作り話の区別) (Columbia University Press, 2011) Paul A. Offit, M.D.およびCharlotte A. Moserの共著

・The Complete Idiot's Guide to Vaccinations (世界一わかりやすい ワクチン接種)

(Penguin Group USA, 2009) Michael J. Smith, M.D., M.S.C.E.およびLaurie Bouckの共著

・Do Vaccines Cause That?! A Guide for Evaluating Vaccine Safety Concerns (ワクチンがその原因ですか?! ワクチンの安全性に関する懸念を評価するためのガイド) (i4ph, 2008) Martin G. Meyers, M.D.およびDiego Pinedaの共著

パンフレットと情報シート

・CDC提供の全てのワクチンに関するワクチン情報文 (VIS: Vaccine Information Statements)

www.cdc.gov/vaccines/hcp/vis

・種々の切り取り情報シートをフィラデルフィア子供病院 (The Children's Hospital of Philadelphia) のワクチン教育センター (Vaccine Education Center) からダウンロードできます。 www.vaccine.chop.edu/resources

渡航情報

・CDCの渡航者用ウェブサイト - 目的地、ワクチン、疾患に特定した情報を含む

www.cdc.gov/travel

・渡航医療外来を検索する - 国際渡航医学会 (ISTM: International Society of Travel Medicine) と米国熱帯医学衛生学会 (ASTMH: American Society of Tropical Medicine and Hygiene) の両学会は各ウェブサイトで渡航医療外来の検索機能を提供:

ISTM: www.istm.org

ASTMH: www.astmh.org

家族グループ

・Parents PACK (Possessing, Accessing and Communicating Knowledge about Vaccines: ワクチンに関する知識の習得・アクセス・伝達) - フィラデルフィア子供病院 (The Children's Hospital of Philadelphia) のワクチン教育センター (Vaccine Education Center) によって運営されているプログラム。ワクチンに関する月刊ニュースレターメールを無料で提供。全ての年齢層に対するワクチン情報を提供。

www.vaccine.chop.edu/parents

・Vaccinate Your Family - Every Child By Two (ECBT) により管理されている予防接種啓発活動。ワクチンとその安全性に関する情報を含む。

www.vaccinateyourfamily.org



・自閉症科学財団 (ASF: Autism Science Foundation) - 自閉症の原因と、より良い治療法の開発に関する科学研究に資金提供する非営利団体。同財団はまた、自閉症に関する情報を一般に提供し、自閉症を持つ個人やその家族の必要性を支援しています。

www.autismsciencefoundation.org

・Families Fighting Flu - インフルエンザで子供を亡くしたり、インフルエンザにより子供が重度の内科的合併症を発現したりするのを直接経験した家族や小児科医で構成される公的な非営利団体。

www.familiesfightingflu.org

・Meningitis Angels - 髄膜炎によって影響を受けた家族で構成され、細菌性髄膜炎の他の被害者とその家族への支援に専念する非営利団体。

www.meningitis-angels.org

・全米髄膜炎協会 (National Meningitis Association) - 髄膜炎菌による疾患で亡くしたり、永続的な障害が発生したりした子供を持つ親により設立された非営利団体。

www.nmaus.org

・PKIDS - 子供が肝炎、HIV/AIDS、その他の慢性ウイルス性感染症に罹患している家族を支援し、感染症に関する人々の認識を高める全米規模の非営利団体。

www.pkids.org



・Cervivor - 子宮頸がんについての偏見を打破し、生存者同士のつながりの支援に従事する組織。

cervivor.org

・The Yellow Umbrella Organization - 「同じ傘の下で共通のゴールに向かって連携を図り…子宮頸がんの予防に従事する」組織。

www.theyellowumbrella.org

思春期の若者とティーン向け資料

・Getvaxed.org - ティーンと若年成人に予防接種に関連した情報とビデオを提供するPKIDSの新たな取り組み。

www.getvaxed.org

ソーシャルメディア

・Shot of Prevention - ECBTにより提供されているブログ。

shotofprevention.comをご覧ください

。FacebookおよびTwitterにあります。



・Parents Who Protect - 全米髄膜炎協会 (National Meningitis Association) により提供されているブログ。
parentswhoprotect.comをご覧ください。

・PKIDSはFacebook、Twitter、Flickr、YouTube、Delicious、その他のソーシャルメディアサイトにあります。これもブログです。詳細はwww.pkids.orgをご覧ください。

・The Yellow Umbrella OrganizationはFacebook、YouTube、Twitterにあります。

・Families Fighting Fluおよび全米髄膜炎協会 (National Meningitis Association) はFacebook、Twitterにあります。

モバイルアプリ

Vaccines on the Go: What You Should Know (移動中に閲覧可能な予防接種情報: 知っているべきこと) はフィラデルフィア子供病院 (The Children's Hospital of Philadelphia) のワクチン教育センター (VEC: Vaccine Education Center) により開発され、AndroidとiPhoneで利用可能です。このアプリはワクチンとそれらが予防する疾患に関する情報の他に、ゲーム、保存場所、メールによる質問、他のVEC情報源へのリンクなど、双方向性の内容が含まれています。
vaccine.chop.edu/mobileappで詳細をご覧ください。ダウンロードしてください。

予防接種記録

以下は、思春期の若者とティーンに推奨されているワクチンのリストです。子供のかかりつけ医や他の医療従事者に、子供がワクチン接種を受けた日付を記入してもらってください。

子供の氏名 _____ 生年月日 _____

ワクチン (Vaccine)	接種回数 (Number of Doses)		
Tdap			
髄膜炎菌 ACWY (Meningococcus)			
髄膜炎菌 B (Meningococcus)			
ヒトパピローマウイルス (Human Papillomavirus)			
インフルエンザ (Influenza)			

接種遅れを取り戻すワクチンがありますか？

医療提供者に子供の医療記録からの情報をここに追加してもらい、子供が以下のワクチンに関して適正な回数の接種を受けているかを確認してください。

A型肝炎 (Hepatitis A) _____

B型肝炎 (Hepatitis B) _____

ポリオ (Polio) _____

MMR _____

水痘 (Varicella) _____





『ワクチンとティーン: 人との付き合いで多忙な年代』は米国医師会 (American Medical Association) との共同制作により Children's Hospital of Philadelphia の Vaccine Education Center によって記載・作成されました。当センターはワクチンとそれらが予防する疾患に関する正確、包括かつ最新の情報を提供するために2000年10月に創設されました。Vaccine Education Center は Children's Hospital of Philadelphia の基金教授陣によって資金提供されています。当センターはワクチン製薬会社からの援助を受けていません。

ワクチンに関するその他の情報は、
以下の Vaccine Education Center のウェブサイトをご覧ください
vaccine.chop.edu
vaccine.chop.edu/parents

 The Children's Hospital of Philadelphia®

34th Street and Civic Center Boulevard, Philadelphia, PA 19104-4399
1-800 TRY CHOP www.chop.edu

1855年に設立された Children's Hospital of Philadelphia は、米国における小児医療の発祥の地です。その歴史を通して、技術革新に対する情熱的な精神が、科学的な発見を追求し、最高水準の患者ケアを確立し、小児科における将来のリーダーを育成するために、この名高い機関を牽引してきました。一世紀半に渡り、Children's Hospital は、世界中の子供とその家族のために希望のよりどころとして奉仕しています。

The Children's Hospital of Philadelphia と  のロゴは Children's Hospital of Philadelphia の登録商標です。

つながりを維持しよう。

